

Brief Biography of Prof. M. Nomura and List of His Selected Works

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-07-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00054855

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



野村真理教授 略歴と研究業績一覧

略 歴

- 1972年 4月 埼玉大学理工学部数学科入学
1976年 3月 同 卒業
4月 一橋大学社会学部入学
1979年 3月 同 退学
4月 一橋大学大学院社会学研究科修士課程入学
1981年 3月 同課程修了
4月 一橋大学大学院社会学研究科後期博士課程進学
1983年 3月 同課程退学
1983年 4月から1989年 3月まで 一橋大学社会学部助手
1989年 4月から1996年 3月まで 金沢大学経済学部助教授
1996年 4月から2008年 3月まで 金沢大学経済学部教授
2008年 4月から2019年 3月まで 金沢大学人間社会研究域経済学
経営学系教授

- 1976年 3月 理 学 士：埼玉大学
1981年 3月 社会学修士：一橋大学
1994年 7月 博士(社会学)：一橋大学

主要研究業績

著書

『隣人が敵国人になる日 —— 第一次世界大戦と東中歐の諸民族』人文書院，2013年。

『ホロコースト後のユダヤ人 —— 約束の土地は何処か』世界思想社，2012年。

『ガリツィアのユダヤ人——ポーランド人とウクライナ人のはざままで』人文書院，2008年。

『ウィーンのユダヤ人——19世紀末からホロコースト前夜まで』御茶の水書房，1999年。

『西欧とユダヤのはざま——近代ドイツ・ユダヤ人問題』南窓社，1992年。

共著・共編著 (書籍に収録された論文あるいは学術エッセイは、ここに分類した。)

山室信一編『人文学宣言』ナカニシヤ出版，2019年，所収「歴史の前に立ちつくして」

Yuu Nishimura and Mari Nomura (ed.), *Polish-Jewish Relations and Anti-Semitism in Interwar Poland. Proceedings of the International Seminar, Kyoto, January 7-8, 2018*, Kanazawa University, 2018.

橋本伸也(編)『せめぎあう中東欧・ロシアの歴史認識問題——ナチズムと社会主義の過去をめぐる葛藤』ミネルヴァ書房，2017年，所収「ルーマニアにホロコーストはなかった？——ルーマニアの民族浄化」

Yuu Nishimura and Mari Nomura (ed.), *Yiddishism and Creation of the Yiddish Nation. Proceedings of the International Workshop, Tokyo, January 7 and Kyoto, January 9, 2017*, Kanazawa University, 2017.

赤尾光春・向井直己(編)『ユダヤ人と自治——中東欧・ロシアにおけるディアスポラ共同体の興亡』岩波書店，2017年，所収「正義と不正義の境界——ナチ支配下ウィーンのユダヤ・ゲマインデ」

志摩園子(編)『ラトヴィアを知るための47章』明石書店，2016年，所収「リーガのユダヤ人——ユダヤ人とラトヴィア人の微妙な関係」

藤原辰史(編)『第一次世界大戦を考える』共和国，2016年，所収「民族自決のうねりと新たな火種」「二つの帝国崩壊と国籍問題」

Commentary: History and Memory Conflicts : A Comparison of Germany and Japan to the Regions of Eastern Europe and East Asia, in : Nobuya Hashimoto (ed.), *Politics of Histories and Memories and Conflicts in Central and East European Countries and Russia*, Kwansai Gakuin University, 2015.

山室信一，他(編)『現代の起点 第一次世界大戦 4 遺産』岩波書店，

2014年, 所収「帝国崩壊と東中欧の民族的再編の行方」

大津留厚, 他(編)『ハプスブルク史研究入門——歴史のラビリンスへの招待』昭和堂, 2013年, 所収「ハプスブルクのユダヤ人」

Rattenfänger von Hameln oder : Die verschwundene Welt der Deutschbalten, in: Tokimasa Sekiguchi (ed.), *From Krakow to Vilnius. Report of the 2nd International Itinerant Seminar “Common Heritage of the Eastern Borderland of Europe”* (2010), Tokyo University of Foreign Studies, 2013.

篠原琢(編)『ヨーロッパ東部境界地域の共有遺産研究 1 ガリツィア』,

東京外国語大学, 2011年, 所収「ガリツィアを語ることの困難について」

白杵陽(監修)『シオニズムの解剖——現代ユダヤ世界におけるディアスポラとイスラエルの相克』人文書院, 2011年, 所収「カタストロフィ・シオニズム——ホロコースト後のユダヤ人DP (Displaced Persons)」

弁納才一・鶴園裕(編)『東アジア共生の歴史的基礎——日本・中国・南北コリアの対話』御茶の水書房, 2008年, 所収「二つの顔を持つ国——第二次世界大戦後オーストリアの歴史認識とユダヤ人犠牲者補償問題」

川越修・植村邦彦・野村真理(編)『思想史と社会史の弁証法』御茶の水書房, 2007年, 所収「検証1941年リヴィウのポグロム」

西成彦・高橋秀寿(編)『東欧の二〇世紀』人文書院, 2006年, 所収「何も終わっていない——東ガリツィアにおけるホロコーストの記憶をめぐる」

野村真理・弁納才一(編)『地域統合と人的移動——ヨーロッパと東アジアの歴史・現状・展望』御茶の水書房, 2006年, 所収「近現代ヨーロッパにおける地域統合と人的移動——歴史的概観(中島健二氏と共同執筆)」、「自国史の検証——リトアニアにおけるホロコーストの記憶をめぐる」

大津留厚(編)『中央ヨーロッパの可能性——揺れ動くその歴史と社会』昭和堂, 2006年, 所収「失われた世界へ——東ガリツィアの戦間期からホロコーストまで」

若尾祐司・井上茂子(編)『近代ドイツの歴史——18世紀から現代まで』ミネルヴァ書房, 2005年, 所収「東欧ユダヤ人」

望田幸男・村岡健次(監修)『民族』ミネルヴァ書房, 2003年, 所収「恩讐の彼方——東ガリツィアのポーランド人・ユダヤ人・ウクライナ人」

- 「月刊みんぱく」編集部(編)『キーワードで読みとく世界の紛争』河出書房新社, 2003年, 所収「ヨーロッパでなぜユダヤ人は嫌われたのか」
- 森明子(編)『歴史叙述の現在——歴史学と人類学の対話』人文書院, 2002年, 所収「歴史叙述の主体性と責任」
- 慶應義塾大学経済学部(編)『マイノリティからの展望』弘文堂, 2000年, 所収「シオアーのあとで——ユダヤ人解放の論理と倫理」
- 石塚正英(編)『ヘーゲル左派と独仏思想界』御茶の水書房, 1999年, 所収「ユダヤ人問題——西欧とユードントゥームのはざま」
- 石塚正英(編)『ヘーゲル左派: 思想・運動・歴史』法政大学出版局, 1992年, 所収「後期モーゼス・ヘスにおける民族的世界の復権」
- 大江一道, 他(編)『歴史のなかの子供たち 第2巻 がんばったはなし』大月書店, 1990年, 所収「煙突掃除の子供たち」
- 田中浩(編)『現代世界と国民国家の将来』御茶の水書房, 1990年, 所収「初期マルクスの国家像」
- 川名隆史・篠原敏昭・野村真理『路上の人びと——近代ヨーロッパ民衆生活史』日本エディタースクール出版部, 1987年。
- 良知力・廣松渉編『ヘーゲル左派論叢 第3巻 ユダヤ人問題』御茶の水書房, 1986年, 所収「ヘーゲル左派とユダヤ人問題」
- 西川正雄(編)『ドイツ史研究入門』東京大学出版会, 1984年, 所収「ユダヤ人と反セミティズム・近代」(良知力氏と共同執筆)

論文・研究ノート

- 「ミンスクのホロコースト——ユダヤ人抵抗運動の成果と限界(後篇)」『金沢大学経済論集』第39巻第2号, 2019年。
- 「ミンスクのホロコースト——ユダヤ人抵抗運動の成果と限界(前篇)」『金沢大学経済論集』第39巻第1号, 2018年。
- 「ユダヤ人ネットワークの実像と虚像——「世界イスラエル連合」から『シオンの賢者の議定書』へ」『東欧史研究』第38号, 2016年。
- 「ホロコーストとルーマニア(後篇)」『金沢大学経済論集』第36巻第2号, 2016年。

「ホロコーストとルーマニア(前篇)」『金沢大学経済論集』第36巻第1号、2015年。

「満洲——ロシア人・ユダヤ人・日本人の交錯」『ユダヤ・イスラエル研究』第29号、2015年。

「ナチ支配下ウィーンのユダヤ人移住におけるウィーン・モデルとゲマインデ」『ユダヤ・イスラエル研究』第28号、2014年。

「近親憎悪？ ウィーンのイディッシュ」『立命館 言語文化研究』第25巻第4号、2014年。

「1941年リーガのユダヤ人とラトヴィア人——ラトヴィア人のホロコースト協力をめぐって(後篇)」『金沢大学経済論集』第30巻第2号、2010年。

「1941年リーガのユダヤ人とラトヴィア人——ラトヴィア人のホロコースト協力をめぐって(前篇)」『金沢大学経済論集』第30巻第1号、2009年。

「杉原ビザとリトアニアのユダヤ人の悲劇」『歴史と地理：世界史の研究』山川出版社、第581号、2005年。

「ガリツィア・ユダヤ人の窮乏——ヨーゼフ時代を中心に(2)」『金沢大学経済学部論集』第23巻第2号、2003年。

「ガリツィア・ユダヤ人の窮乏——ヨーゼフ時代を中心に」『金沢大学経済学部論集』第23巻第1号、2002年。

「ウィーンのユダヤ人——同化と異化のはざままで」『歴史学研究』第755号、2001年。

「フェルキッシュ・ナショナリズムの行方」『現代思想』2001年7月号。
研究ノート「歴史的用語としての『市民』」『金沢大学経済学部論集』第21巻第1号、2001年。

「戦間期ウィーンのユダヤ人社会(3)」『金沢大学経済学部論集』第20巻第1号、2000年。

「戦間期ウィーンのユダヤ人社会(2)」『金沢大学経済学部論集』第19巻第2号、1999年。

「戦間期ウィーンのユダヤ人社会」『金沢大学経済学部論集』第19巻第1号、1998年。

「第一次世界大戦後オーストリアにおけるガリツィア・ユダヤ人の国籍問

題]『金沢大学経済学部論集』第16巻第2号, 1996年。

「レムベルクのユダヤ人」『ユダヤ・イスラエル研究』第15号, 1996年。

「戦間期オーストリアの反ユダヤ主義 1918-1925」『金沢大学経済学部論集』第16巻第1号, 1995年。

「半アジアからサラエヴォによせて」『現代思想』1995年7月号。

「第一次世界大戦期オーストリアの戦争難民問題(2)」『金沢大学経済学部論集』第15巻第2号, 1995年。

「第一次世界大戦期オーストリアの戦争難民問題(1)」『金沢大学経済学部論集』第15巻第1号, 1994年。

「ゼーリヒのために —— 戦間期ウィーンのユダヤ人」『現代思想』1994年12月号。

「『ハプスブルク神話』と世紀末ウィーンのユダヤ人」『金沢大学経済学部論集』第12巻第2号, 1992年。

「ドイツ・ユダヤ人と東欧ユダヤ人問題 1914-1933 (2)」『金沢大学経済学部論集』第11巻第2号, 1991年。

「ドイツ・ユダヤ人と東欧ユダヤ人問題 1914-1933 (1)」『金沢大学経済学部論集』第11巻第1号, 1990年。

「ハインリヒ・グレーツにおけるユダヤ的アイデンティティの諸問題」『社会思想史研究』第14号, 1990年。

「自由主義的ユダヤ人解放論とシオニズム」『社会思想史研究』第13号, 1989年。

「西欧とユードントゥームのはざま」『歴史学研究』第594号, 1989年。

「ドイツ三月前期におけるヨーロッパ中心主義的反ユダヤ主義」『歴史学研究』第585号, 1988年。

「シオニズム草創期の西欧における東欧ユダヤ人の影」『一橋論叢』第100巻第2号, 1988年。

「三月前期ウィーンの大衆的貧困と救貧制度」『一橋論叢』第97巻第1号, 1987年。

研究ノート「三月前期ウィーンのユダヤ人社会」『東欧史研究』第9号, 1986年。

「後期モーゼス・ヘスにおけるユダヤ民族への回帰をめぐる」『一橋論叢』第93巻第5号, 1985年。

修士論文「モーゼス・ヘスの歴史哲学とユードントゥーム」一橋大学，1981年。

翻訳

(西村木綿・田中壮泰氏と共訳) メレフ・ラヴィッチ「夜明けの皇帝」『ナマール』第23号，2018年。

(鈴木隆雄氏，他と共訳) ユーリウス・H・シェプス(編)『ユダヤ小百科』水声社，2012年。

(共訳) 小林勝(編集責任)『ローザ・ルクセンブルク全集 第1巻』御茶の水書房，2012年。

メンデル・ノイグレッツェル『イディッシュのウィーン』松籟社，1997年。

(共訳) カール・マルクス『資本論草稿集2 1857-58年の経済学草稿第2分冊』大月書店，1993年。

(篠原敏昭氏，他と共訳) 良知力・廣松渉編『ヘーゲル左派論叢 第3巻 ユダヤ人問題』御茶の水書房，1986年。

書評・新刊紹介

「清水陽子『ユダヤ人虐殺の森——リトアニアの少女マーシャの証言』(群像社，2016年)」『ユダヤ・イスラエル研究』第31号，2017年。

「ノーマン・M・ナイマーク『民族浄化のヨーロッパ史——憎しみの連鎖の20世紀』(山本明代訳，刀水書房，2014年)」『西洋史学』第257号，2015年。

「長田浩彰『「境界に立つ市民」の誇り——ユダヤ人を家族に持つナチ時代のアーリア人作家クレッパー』(丸善出版，2014年)」『ユダヤ・イスラエル研究』第28号，2014年。

「長田浩彰『われらユダヤ系ドイツ人——マイノリティから見たドイツ現代史1893-1951』(広島大学出版会，2011年)」『ユダヤ・イスラエル研究』第25号，2011年。

「武井彩佳『ユダヤ人財産はだれのものか——ホロコーストからパレスチナ問題へ』(白水社，2008年)」日本ドイツ学会『ドイツ研究』第44号，2010年。

「スティーヴン・ベラー『世紀末ウィーンのユダヤ人1867—1938』(桑名映子訳，刀水書房，2007年)」『西洋史学』第233号，2009年。

- 「スティーヴン・ベラー『世紀末ウィーンのユダヤ人1867—1938』(桑名映子訳, 刀水書房, 2007年)』『週刊読書人』2008年5月16日号。
- 「フェリクス・ティフ(編)『ポーランドのユダヤ人——歴史・文化・ホロコースト』(阪東宏訳, みすず書房, 2006年)』『ユダヤ・イスラエル研究』第22号, 2007年。
- 「森まり子『社会主義シオニズムとアラブ問題——ベングリオンの軌跡1905-1939』(岩波書店, 2002年)』『社会思想史研究』第27号, 2003年。
- 「オットー・パウアー『民族問題と社会民主主義』(丸山敬一, 他訳, 御茶の水書房, 2001年)』『アソシエ』第7号, 2001年。
- 「ゴットフリート・ワーグナー『ワーグナーと人種差別問題』(岩淵達治訳, BOC出版部, 1995年)』『世界文学』第82号, 1995年。
- 「植村邦彦『同化と解放——19世紀「ユダヤ人問題」論争』(平凡社, 1993年)』『経済学史学会年報』第32号, 1994年。
- 「増谷英樹『ピラの中の革命——ウィーン・1848年』(東京大学出版会, 1987年)』『一橋論叢』第97巻第6号, 1987年。

項目を分担執筆した事典

- 社会思想史学会(編)『社会思想史事典』丸善出版, 2019年。
- 石塚正英・柴田隆行(監修)『哲学・思想翻訳語事典』論創社, 2003年。
- 的場昭弘, 他(編)『新マルクス学事典』弘文堂, 2000年。

その他 (さまざまな雑誌, 新聞等で執筆の機会を与えていただいたが, ここではその一部を記すにとどめた。)

- 「第一次大戦から100年：ナショナリズム」『京都新聞』2015年6月20日。
- 「現代ユダヤ人問題の起源」『毎日新聞』東京版, 2015年1月29日夕刊。
- 「二つの帝国崩壊と国籍・無国籍問題」『図書新聞』第3171号(2014年8月16日)。
- 「ハルピンのユダヤ人墓地」『セーヴェル』第30号, 2014年。
- 「国歌における男女同権——オーストリア国歌の歌詞改訂によせて」『日本学術会議中部地区会議ニュース』第133号, 2012年。
- 「昨日の世界のユダヤ人——ウィーン・ユダヤ人社会史のなかのフロイト」

- 岩波書店『フロイト全集月報』第18号, 2010年。
- 「向こう岸が見えるまで」『学術の動向』第14巻第11号, 2009年。
- 「小国リトアニアの歴史認識問題」『学術の動向』第14巻第3号, 2009年。
- 「ディアスポラの民のアイデンティティ —— ユダヤ人とは何者か」『日本学術会議中部地区会議ニュース』第125号, 2008年。
- 「優生学と倫理」金沢大学21世紀COEプログラム「発達・学習・記憶と障害の革新脳科学の創成」倫理指針研究会『講義集 研究者になりたい人のための倫理 —— 先端科学を中心に』2006年。
- 「民族問題から見た中・東欧史研究の課題」『近世中・東欧における地域とアイデンティティ』京都大学大学院文学研究科, 2004年。
- 「ヨーロッパ・永遠のユダヤ人の鏡像」『学鏡』第98巻第3号, 2001年。
- 「マルクスとユダヤ人問題」『アエラムック・マルクスがわかる』朝日新聞社, 1999年10月10日号。

主要口頭報告 (多くの場で口頭報告や講演の機会を与えていただいたが、ここでは主たる学会報告を記すにとどめた。)

- 「帝国・国民国家・ユダヤ人 —— 第一次世界大戦と中東欧のユダヤ人」会議名：愛知教育大学歴史学会, 2017年11月18日, 愛知教育大学。
- 「ホロコースト後のユダヤ人の行方」会議名：神戸・ユダヤ文化研究会2016年第1回文化講座, 2016年6月4日, 兵庫県私学会館。
- “Inter-Ethnic Relations in Colonial Manchuria: Russians, Jews and Japanese”, ICCEES (International Council for Central and East European Studies) IX World Congress, August 4, 2015, Kanda University of International Studies, Makuhari.
- 「ユダヤ人ネットワークの実像と虚像 —— 世界イスラエル連合から『シオンの賢者の議定書』へ」 会議名：東欧史研究会2015年度大会シンポジウム「東欧史におけるネットワーク」, 2015年4月25日, 大正大学(西巢鴨校舎)。
- 「満洲 —— ロシア人・ユダヤ人・日本人の交錯」会議名：第64回日本西洋史学会大会小シンポジウム「ヨーロッパ・ユダヤ人問題の波及」, 2014年6月1日, 立教大学。
- 「未完の戦争：東部戦線によせて」会議名：第63回日本西洋史学会大会小シ

ンポジウム「第一次世界大戦再考」, 2013年5月12日, 京都大学。

「二つの顔を持つ国 —— 第二次世界大戦後オーストリアの歴史認識問題」
会議名: 第108回史学会大会公開シンポジウム「越境する歴史学と歴史認識」,
2010年11月6日, 東京大学(本郷)。

「中欧ユダヤ人のアイデンティティ複合とシオニズム」会議名: 第57回日本
西洋史学会大会シンポジウム「国民国家とアイデンティティ複合」, 2007年
6月16日, 新潟コンベンションセンター。

「犠牲者神話の犠牲者 —— オーストリアにおける過去の克服とユダヤ人」
会議名: 日本ユダヤ学会第1回大会, 2007年5月26日, 早稲田奉仕園。

「拡大EUとホロコースト研究」会議名: 同志社大学CISMORユダヤ学会議シ
ンポジウム「日本におけるユダヤ学の現状」2005年12月10日, 同志社大学。

「西ウクライナの20世紀」会議名: 第101回史学会大会公開シンポジウム「第
一次世界大戦と世界」, 2003年11月8日, 東京大学(本郷)。

「反ユダヤ主義とシオニズム —— ユダヤ人の発見」会議名: 日本独文学会秋
季大会, 2002年9月28日, 新潟大学。

「歴史研究者の主体性と責任」会議名: 国立民族学博物館国際シンポジウム
「歴史叙述の現在 —— 歴史学と人類学の対話」, 2001年11月13~15日, 国立
民族学博物館。

「ウィーンのユダヤ人 —— 同化と異化のはざままで」会議名: 歴史学研究会
2001年度大会「近代史部会」, 2001年5月27日, 青山学院大学(青山キャンパ
ス)。

「世紀末ウィーンのユダヤ人」会議名: 日本イスラエル文化研究会, 1994年
12月3日, 神戸女学院大学。

「自由主義的ユダヤ人解放論とシオニズム」会議名: 社会思想史学会第13回
大会, 1988年10月8日, 立正大学。

„Der eurozentristische Antisemitismus des Vormärz“ 会議名: 日独歴史学シンポ
ジウム「近代反ユダヤ主義研究の現状と問題」, 1987年10月19日, 東京外国
語大学。